

シラバス参照

[シラバス検索](#) > [検索結果一覧](#) > シラバス参照

科目ナンバリングについて
こちらを参照してください。
講義コード
0010512-1
授業科目名
心理学 I
授業科目名 (英字)
Psychology I
時間割
後期 木曜日 4校時 L-4 1 5
対象年次及び学年
1年次
担当教員
川人 潤子 谷淵 真也
ナンバリングコード・水準
B2
ナンバリングコード・分野
PSY
ナンバリングコード・ディプロマ・ポリシー-(DP)
bax
ナンバリングコード・提供部局
G
ナンバリングコード・対象学生
1
ナンバリングコード・特定プログラムとの対応
O
ナンバリングコード・授業形態
Lg
ナンバリングコード・単位数
2
関連授業科目
履修推奨科目
学習時間
授業90分×15回 + 自学自習 (準備学習30時間 + 事後学習30時間)
授業の概要
この授業では、心理学について広く講義します。前半では、行動論の基礎知識の講義を通して、受講生の人間の思考・行動への理解を深めます。後半では、発達、性格、社会、生理、臨床などの分野についての学びを深めます。全体を通して、受講生が心理学の基礎知識を学び、人間の多様な心理的機能について理解を深められるよう講義と演習を行い、自分や他者の行動に対する洞察力を養う

力を高めます。また、適宜ワークやディスカッションを取り入れ、考えを言葉で表現し、グループで協同する力を養います。
授業の目的
心理学の基礎的理論を理解するとともに、それらを用いて他者と協同して学ぶ力を養います。
到達目標
1. 授業で扱う心理学の理論について説明することができる（共通教育スタンダードの「広範な人文・社会・自然に関する知識」に対応）。 2. 心理学の日常生活での活用方法を提案することができる（共通教育スタンダードの「21世紀社会の諸課題に対する探究能力」に対応）。
成績評価の方法
授業への取り組み姿勢20%（特に到達目標2に対応）、中間理解度チェック40%（特に到達目標1に対応）、期末レポート40%（特に到達目標1に対応）
成績評価の基準
成績の評価は、100点をもって満点とし、秀、優、良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。 秀（90点以上100点まで）到達目標を極めて高い水準で達成している。 優（80点以上90点未満）到達目標を高い水準で達成している。 良（70点以上80点未満）到達目標を標準的な水準で達成している。 可（60点以上70点未満）到達目標を最低限の水準で達成している。 不可（60点未満）到達目標を達成していない。または、授業の出席回数が3分の2に満たない。 ただし、必要と認める場合は、合格、了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおりとする。 合格又は了 到達目標を達成している。 不合格 到達目標を達成していない。
授業計画並びに授業及び学習の方法
【授業計画】 第1回 オリエンテーション：心理学とは（谷淵） 第2回 行動論の基礎理論 ― レスポンド条件づけ（谷淵） 第3回 行動論の基礎理論 ― オペラント条件づけ（谷淵） 第4回 言語行動の基礎 ― 人間と他の動物の違い（谷淵） 第5回 言語行動の発達 ― 言語能力によって何ができるようになるのか（谷淵） 第6回 日常の行動問題のしくみを考える（谷淵） 第7回 行動問題への介入を考える（谷淵） 第8回 前半のまとめ（谷淵） 第9回 感情の心理学：DVD視聴（川人） 第10回 発達（川人） 第11回 性格（川人） 第12回 社会心理（川人） 第13回 脳と生理心理学（川人） 第14回 臨床心理と心理療法（川人） 第15回 レポート課題、まとめ（川人） 【授業及び学習の方法】 前半（第1回～第8回）を谷淵、後半（第9回～第15回）を川人が担当します。 授業は講義中心に進めますが、受講生の理解を助けるため適宜ワークを取り入れます。また、第15回ではレポートを課し、学んだ内容の整理を促します。 この科目はすべてオンデマンド配信で行います。 【自学自習のためのアドバイス】(各回4時間×15回＝60時間) <事前学習> 事前に資料が配布されている場合には内容を読んでおいてください。 <事後学習> 各回の授業の内容を振り返り、自身の理解度を確認するとともに疑問点を挙げてください。また、授業で学習した理論が、生活場面や対人援助・教育にどのように応用されているかを調べてください。
教科書・参考書等
参考書（前半）：行動分析学入門第2版（杉山尚子他、産業図書、2023年、3960円）、関係フレーム理論（RFT）を学ぶ（トールネケ他、星和書店、2013年、3080円）
オフィスアワー
谷淵：三木キャンパス 講義棟3階 318研究室 水曜日1時限目 川人：三木キャンパス 講義棟3階 火曜日昼休み
履修上の注意・担当教員からのメッセージ
毎回出欠をとります。なお、病気等のやむを得ない欠席の際、欠席届や診断書等の提出があれば、公欠扱いとします。 2023年度と2024年度で、授業で扱うテーマや評価方法を大幅に変更しています。ご注意ください。
参照ホームページ
メールアドレス
谷淵：tanibuchi.shinya@kagawa-u.ac.jp 川人：kawahito.junko@kagawa-u.ac.jp
教員の実務経験との関連